

## 高知県・高知市連携会議 会議録

1 日時：H22.8.24 13:00-13:50

2 場所：高知県庁第二応接室

3 出席者

○高知県：尾崎知事、十河副知事、中澤教育長、恩田総務部長

○高知市：岡崎市長、吉岡副市長、安藤副市長、松原教育長、中澤総務部長

### ■協議内容

#### 1 産業振興計画

知事：まずは第一に非常に急がなくてはならない課題として、ポスト龍馬博の取り組みがあります。こちらにつきましては龍馬博効果を最大限に活用して、高知駅前のパビリオンの活用策などポスト龍馬博に向けた取り組みを引き続き県・市が連携して強化していきたい。こちらの方もがちりと手を組んでやっていきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

高知市の地域アクションプランについてですが、いろいろ時期も経ってきたということもあります。またポスト龍馬博に向けてということ、こちらに対応したということもあろうかと思えます。ぜひ今後は現行プランの再整理と新たな可能性に向けた取り組みを推進していく必要があるものと考えておまして。当方も松尾振興監はじめ皆で、全力で汗をかいてまいりたいと考えておりますが、高知市と共にこちらでもがちり手を組んでやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

市長：ポスト龍馬博ですが、おかげさまで中央部の非常に入り込みも多くて、我々も上町の龍馬の生まれたまち、それと桂浜の県立龍馬記念館、非常に賑わっておりましていろんな意味で相乗効果が出ているというふうに思っております。観光客の入り込みは非常に好調なので市内中心部の飲食とか手頃なお土産品が、例えばお酒とかお菓子とか様々な分野で裾野が広がりつつありますので、今年できた財産を来年どうやって繋いで発展させていくかということが、非常に重要なテーマになろうかと思えます。

今の龍馬ふるさと博ということでもまたプランニングが組み上げられていくと思っておりますので今のパビリオンの後の作り込みをどうしていくのか。様々な分野で我々も共同で是非やらせていただきたいと思っておりますので、これを定着させていくということが大事であると思えます。上町の龍馬の生まれたまち記念館ですが、いわゆる土佐っ歩、町歩き観光というのが非常に好調でございますが、暑い中ではありますがお客さんも多く回っていただいておりますので、あれをブラッシュアップをしていくということが非常に重要になるかと思えます。その点では来年以降の龍馬ふるさと博の中でしっかりと作り込んでいかないといけないと思う。地域アクションプランについて我々もこれから精査を改めてやりますが順調にいつているものと進捗が芳しくないものがそれぞれございます。芳しくないものにつきましては、理由がほぼわかっているので整理するものは整理して、次に発展させていかなければいけないものは継続して、障害になっているものを取り除いていくという作業を、やっていきたいと思っております。

補助金の理由につきましては、中央部最初ははずとかいろいろいただきましたが、さらに我々もいろんな政策を再度ブラッシュアップし検討して補助金を活用ということに積極的にさせていただきたいと思えます。近々高知市のアクションプランの各項目につきましては確認して精査する予定であります。

知事：ポスト龍馬博には全速力で取り組んでいますけれども、どういう形になっていくのか基本的には、メインがあってサブのパビリオンがあってという今のような翼を広げたような体系というのが引き続き効果的なのではないかと思っていますが、本県へ人を呼んでくる強力な集客コンテンツというものはどういうものを持てるかどうか、とかそういうものを詰めて検討していかなくてはいけないと思います。コアとその効果を波及させていくような全体的な仕組み、引き続き二段の構成となっていくと思っているんですが、そういうことについて引き続き検討を重ね、特にコアとなる部分について引き続き高知市に、ということになるかと思っていますのでその部分をまた具体的な協議をさせていただきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願ひいたします。とにかく 10 月から次のポスト龍馬博ということについて前面に出していかなくてはいけなくなりますので、どうしても時間がないものですから、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

市長：来年九州新幹線の開業となると、高知へ関西方面からの入り込みが順調ですけれど、関西のエージェントからは九州に人間が動くというお話もいろいろ入ってきておりますので、そこでの競合に合わせて来年以降そういうことも十分に考えられますので、そこをにらみながらできるだけ四国へ、高知へという仕掛けと仕組みということを考えていきたいと思っています。

## 2 学力向上対策

市長：学力につきましては集中的に高知市の学力向上で、小学校中学校対策ともに非常に取り組みをいたしておりまして感謝しております。人的にも財政的支援も大変手厚くしてもらっているので学校現場においても様々なフォローアップ、補習活動をしております。小学校は全国レベルになってきたが、中学校に課題があるということ、我々も認識をしております、教育委員会の中でも中学校をどういうふうに入力するかということ、今検討し、2学期から早急に取り組んでいくことを検討しております。教育長から詳細を申し上げたいと思います。特に中学校の学力向上の問題につきましては、高知市も大きく力点を置きながら、ボトムアップを図っていかなくてはなりませんので。詳細はまた、教育長からご説明いたします。

知事：学習習慣の確立とか授業の質を向上させる取り組みを全速力で進めておられるというふうに伺っております。まだ道半ばということもあるのだらうと思いますが、残念ながら今回中学校の結果については残念な思いもある。小学校は良かったと思いますが、中学校が問題ですね。学校現場でのいろいろな取り組みの状況を把握されたりする中からいろいろ改善される点も出てこられるというふうに伺っておりますがそういう点について教えていただきたいと思っています。

松原教育長：過去3回の全国の学習状況調査を比較しまして、今回は、小学校は国・算ともに、また基礎応用ともに全国レベルを上回っている状況であります。中学校も一定の改善の兆候はあるのですが、数Bについては大変厳しい状況であります。特に中学校の場合は県・市共同で学力向上対策に特化した形で取り組んできたわけでありまして、その有効な活用ができたかどうか一定総括をしていかなくてはならないと考えております。私は総括として4点ほど考えているわけでありまして、まず1点は県の支援もあり必要な対策は整ってきているのではないかと考えています。徐々に成果もあげてきておりますし、考えられるいろんな手立てというのは県・市一体となって、対策は講じてきたというのはありますのでその方向性そのものは間違っていないのではないかと考えています。ただ、実際には学力を見てみると個々の学校で差がありますし、また、学力向上対策が有効に機能してい

る学校の取り組みには一定共通点があるのではないかと考えています。一つには個々の児童生徒の学習状況を学校そのものが的確に把握しながら、その対策としてしっかり個別化が図られているという問題。そしてまた全教職員による組織的な学校の運営、あるいは校内研修とか授業改善の研修というものが充実しているといったことがありますので、そういった観点に立って人的配置や教材等を有効に活用しながら、個々の子供たちの学力向上を図っていきたいと考えています。

中澤教育長：ツールとしては揃ったというふうに感じております。そのツールが本当に子供たちの成長に関連できるような取り組みになっているかいないかということ。話としては小さなことですが、凡事徹底されて、その取り組みや質が上がったかを確認して継続して取り組まれるか、これがやはりポイントであると考えています。それを活かすのは組織力であるということです。2学期から学校が一段と変わっていくようにスピード感をもって取り組まなければならないと思うが、そこの辺りをお伺いしたい。

松原教育長：中学校だけの問題ではないのではないかと考えています。小学校の低学年からのわからないことの積み重ねが現実の中学校の状況を生み出しているということもありますので、我々としては2学期以降学力向上改善プランの見直しを図っていききたい、各学校の改善プランの計画の見直しを図るために、ヒアリングをしながら2学期以降の各学校の学力向上の具体的な改善プランについて指導助言をしていったらいいと考えています。もう1点は小学校からのわからないことへの積み重ねが中学校の現実に関係があると考えれば、小学校で努力を要する段階の子供たちを満足すべき段階にまで、例えば努力を要する段階をCランク、普通の段階をBランク、満足すべき段階をAランクとすると、Cランクの子どもをBランクへ上げる努力、Bランクの子どもをAランクへ上げる努力、というふうに具体的なことを小学校の低学年から積み重ねていくことが学力向上の中・長期的な展望に立った取り組みではないかというふうに考えています。もう一つはせっかくパワーアップシートをしているのですから、それをきっちりやっていくということが大事な要点ではないかと考えています。

中澤教育長：小学校は平均点で見たら全国を上回っており、それはそれで今まで取り組んできた成果だと思います。学校現場もよく頑張ってくられたと思います。次なる小学校の大きな課題は小学校中学年から現れる学力の二極化にどうやって対応していくかということ、それから中学校の課題は、小学校の時に充分身につけていない、あるいは中学校に入ってからわからないまま学年が進行してしまうということを放置してしまわないように振り返りの学習であるとか、それはパワーアップシートも数学学習シートもその学年用に作っていますがその学年しか使わないということではなく上級生が振り返りに使ったり、活用の仕方であり、活用してどう添削して生徒に返してあげてまた次に生徒がわかってうれしいという気持ちを引き出してあげるか。当たり前のことなんです、当たり前のことを組織できちんと取り組むことが本筋であり、正論だと考えています。その辺りは特に2学期からよろしくお伺いしたいと考えております。

知事：課題は数Bだけではなく、国語も数Aもそうですね。それともう一つ長期的にかかると言っても今の子供の問題がありますから。今中学校に在籍している子供をどうするという問題がありますから今すぐにどう対応できるかという話でございますね。だとすれば2学期からどういう対応するのかということについて非常に我々も市の取り組みについては先進的な取り組みをしておられるのでそれを大いに県教委全体としても学ばせていただきたいと思っているのですが、とにかくこういう課題というのは、長期的な課題ですと言っているのはじまらないので、長期的な課題ですと言うのはずっと十何年も言ってきた事

で、今変えていかなければならない。具体的に授業を変える、放課後を変える取組をしないといけない。その成果を県民の皆さんも市民の皆さんも待っておられる。そういう時かなとおもうのですがいかがですか。

松原教育長：現実の問題として中学生がそういう状況であるわけですから復習とか放課後指導も含めて本県の学力向上を並行してやっていく。ただ小学校の段階からもう1回長期的に積み上げもやっていこうということでございます。

中澤教育長：ボトムアップという言葉が出てきましたが、確かにボトムアップで物事が進んでいけば一番いいのですが、ただボトムアップをするような教育方針としなくてはいけないだろうし、ものによって場合によってはボトムアップを待てないものもあるのではないかと。その使い分けをしながらより加速するような姿勢でいかなければならないと思っております。

松原教育長：その通りだと思っております。ただ学校のやる気とかという問題については学校がプロ集団として直接子供の教育に対して責任を負っていくわけですから、学校が持っているプロとしての教育者としての知恵というものがそれぞれの学校で出てこないとならないということもありますので、我々としては並行してやる気をどう育てていくのかということも含めて現場サイドには指導していかなくてはならないということです。

市長：応用問題が解けていないですね。応用問題が解けていないということは国語の読解力がどれだけ重要かということなので。

知事：課題はただ数学Bだけではないですね。数学Aもそうですね。そこが問題ではないですか。

松原教育長：改善の兆しはあるということは事実だろうと思いますが、だけど低いことは間違いない。

知事：こういう話は率直に現実を受け止めて対応していくことが極めて重要かと思えますし、また長期的に取り組むという言葉の陰で短期的な成果について問われなくてすむようにというわけにはいきませんので。長期的な取り組みを要すということをやっと言ってきた変わらないのだから。今の問題としてどう取り組んでいくかということが非常に重要ですよ。我々県教委としてもそういう責任感を持って対応しなければいけないと思っているんですよ。必死で努力を重ねていきたいと思っておりますので。逆に言うと例えば小学校の成果などは素晴らしいものがあると思っておりますので、そういう点は我々も学ばせていただきたいと思っております。ただ、中学校の問題は本当に大変な問題だと思っておりますのでぜひ手を取り合って高知市の取組というのでも我々も全面的にバックアップさせていただきたいと思っておりますのでぜひよろしく願いいたします。

市長：2学期から教育委員会を介していろいろな対応を、今校長会で話をしておりますので2学期が始まりましたらすぐに対応に移せるように取り組んでいきたいと思っております。

### 3 ナイター

知事：本県は、全国でも唯一のナイター設備付きの球場がない県となっております。これまで、スポーツ関係団体から色々な要望が出されるなど県民の注目度が高い課題となっております。この際ぜひナイター設備付きの球場を整備していきたい。その際、夜間の観客の皆様公共交通の利便性や、さらには野球関係団体からの要望の件とか、また、いろいろな経済的な波及効果を最大限に発揮するという観点から勘案すると、高知市営球場にナイターを設置することが必要だと考えますが。また、高知市営球場にナイターを設置する件は、急ぐ必要があると思うわけでありまして。一つには、県民の皆様方のニー

ズが強いものが従前よりあるが、いくつか今やることで非常に効果をもたらせると思われる契機がございます。高知ファイティングドッグスを県民球団としてバックアップしていくということもあります。もう一つ何よりもスポーツマスターズが平成24年に本県で開催されることになりました。このスポーツマスターズという機会を十分に活かし切るという観点からも、できるだけ早期に、ナイターをやるのであれば今の時期に早く取り組みを始めた方がいいのではないかと思います。この高知市営球場へのナイターの設置をぜひ進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

市長：今日の昼のニュースでスポーツマスターズ大会の会期日程が決まったことが報道されていきました。24年10月中旬から下旬にかけての日程が決まったということでした。ナイター照明の考え方については、高知市の設置した委員会からは、2通り考え方はあるのですが、第一義として、一番観客数が多い、グレードが一番高い春野球場に設置すべきでないかという報告書をいただいておりますが、今回スポーツマスターズが急ぐということもありますし、各種の野球関連の団体から高知市営球場への設置という要望を受けておりますので、最終的には支援ということをお願いしなければならないが、そういう要請を受けて高知市営球場へのナイター設備の設置を進めていきたいと思っております。ただ、財政再建中なので、財政的な支援をいろいろな意味で県にもお願いしたいということで、高知市営球場への設置ということを基本として地元、また議会へも話しながら協議をしていきたいということで、基本的には市営球場への設置ということでいろいろな検討と地元協議を進めていきたいと思っております。ただ、財政的な支援をよろしくお願ひしたい。

知事：技術面とか、ハード整備についての財政的な面とか、全面的に県が支援申し上げたいと思います。これも手を取り、市営球場の夜を明るくして、スポーツ人口を増やし、また経済効果をもたらしていければと思います。

市長：スポーツマスターズはサスペンデッド試合がなく、日程変更が難しいと聞いていますので、そこが大きな肝にもなろうかと思います。今日の正式な提案を受けて、市営球場への設置ということで具体的に地元へも協議を進めていきたいと思っております。

#### 4 県市の図書館のあり方

市長：図書館の方は新聞報道でもいろいろあると思いますが、私どもは、市議会でも一貫して老朽化しております市民図書館と県の図書館も老朽化しつつあるので、できたら追手前小学校敷地へ合築を協議していきたいと市議会でも一貫して答弁してきましたし、尾崎知事にも市の図書館と県立図書館の一体型整備、いろいろなメリットもありますし、具体にも提案してきたところであります。新聞でもいろんな意見があるが、我々は一番に利用者の利便性があるかというところを重点的に見ていかななくてはならないと思っております。一つの場所で、県の図書館の本も市の図書館の本も一つのカードで借りれるというのは利用者にとって大変大きな利便性が発生すると確信しておりますので、お客様に対しての利便性を考えた場合にどうなのかということはきちんと押さえながら、私たちは合築で一体型整備というのは非常に利用者にとってメリットがあると考えているので、そこをかなり重視しながらいったらどうかと考えている。また、合築によりまして例えばロビーとかエレベーターとか書架を共有することによって建築面積も一定削減することができ面積を有効に使うことができます。経費的にも有効になるということです。図書館は2歳の子どもさんから高齢者の方々まで幅広く使われる図書館であるので市民の図書館として親しまれてきた。そのイメージのコンセプトを大事にしながら、市民県民の図書館というコンセプトで一体的に整備をさせていただいたらと思っておりますので、できましたらいろいろな意味で、県・市合同で

検討委員会というものについての準備をすすめさせていただいたらと考えています。また、いろいろ県とも意見の調整をしながら進めていきたいと思っています。

知事：県立図書館の整備を図るということは15年来の懸案であり、狭隘化が極端に進んでいる、原因不明の雨漏りがするなどでいろいろな問題で老朽化の非常に深刻な問題であり、急いで対応しなければならない問題だと思っています。この点について、県市のワーキンググループにおいて全国的な専門家の皆さんからのご意見をいただきながら、より良い図書館のあり方について検討を進めてきたところではありますが、市長から提案のあった新しい一体型の県立・市民図書館として基本構想の策定に向けて検討を深めていくという考えについては私としても大いに賛同したいと思います。

その理由として、まず、第一に県民、市民、利用者の目線から見た時にどちらが便利なのかということ、これを第一に考えなくてはならない。第二に一体として整備をしていくことによりまして、ハコモノに係るお金を大幅に削減することができるということ。また、毎年の運営経費も大幅に削減することができるということ。削減することができた分をうまく使うことができれば、重複する部分もうまく整理することができて経費削減に繋げることができれば、その分の経費の部分を県立図書館、市民図書館のそれぞれが持っている機能の充実、大幅強化ということに向けていくことができると思うのです。県立図書館であれば市町村立図書館の支援の機能を大幅に拡充することができるようになります。市民図書館であれば市民への貸し出しサービス、分館分室の展開、ネットワークの維持強化に特化していくことができるようになります。それぞれの持っている本来果たすべき中核的機能を大幅に強化することができることとなる。しかもより安い経費でということになります。その点から考えても市長のご提案に大いに賛同させていただきたいと考えます。

市長：合わせまして今、市立図書館の中で点字図書館というのがございます。点字図書館も県と市の間で歴史的なものもありまして、他県では点字図書館は県が実施をしているケースが多いのですが、我々は過去の色々な経緯がありまして、市で全県下的に点字をカバーしているところなんです。この点字図書館は本館の中にありますので、一緒に整備をしていくこととなりますので、点字図書館は県・市の間でいろいろな役割、機能をどうするのかという論議はあったのですが、そこも一緒に少し整理をしていただきたいというのが一点です。もう一つは棧橋にこども科学図書館というものがございます。今年で30周年になるのですが、理科の多くの教員が非常に熱心に運営されていますが、ここも非常に老朽化しておりますので、理科の研究なども実際にやっているのですが、ここも一体的に整備したいということも出てきますので、そこも今回の検討の中で、検討グループは分けますが、点字図書館の整備の問題、それと子ども科学図書館の整備の問題も併せて検討していきたいと思っていますし、できましたら、点字、こどもも含めて何らかの財政支援をお願いできればと考えているところです。機能のあり方からまず入りますけれども、また相談申し上げたいと思っています。よろしくお願いします。

知事：ハコモノにかかる経費を大幅に削って中身を充実させること、例えば点字図書館の機能であるとか、こども図書館の機能であるとかそういうものを充実させていくのは重要であり、ハコモノにかかるお金は削る分、毎年の運営経費、重複するところを整理してお金を浮かせ、こどもとか点字図書館の機能とかそういうものを大幅に充実させていく方向でやっていくことは非常に意義深いことであるので、是非基本構想の検討の中で話を深めさせていただきたいと思います。立地はワーキンググループの話ですと追手前小学校跡地ということですが、そういうことですね。

市長：はい。我々は追手前小学校敷地で想定をしながら、工程表を組んでいきたいと思ってお

ります。新聞でも様々な論議をいただいておりますように、図書館というものは構想の段階でのコンセプトの作りこみが非常に重要になりますので、県市合同でまた幅広くご意見を聞きながら、子供さんから高齢者の方々まで難なく使える非常に重要なインフラだと思っていますので、そのコンセプトと一緒にしっかり作りこんでいきたいと思っております。

知事：厳しい財政状況の中で行っていく話ですから、図書館を作っていくということと併せて、それが一石二鳥三鳥の効果をもたらしていくことを仕組んでいくこともまた重要だと思います。何よりも県立図書館の本来持つべき機能を大幅に拡充すること、市民図書館が持つ機能を大幅に拡充していくこと、これが第一だと思いますが、それに加えてこれを追手前小学校跡地に設置することができることとなれば、結果として中心市街地の活性化という効果もまたもたらすことができるのだらうと思います。また、立地の面から言いましても郊外型大型図書館というご意見もあるようですけれど、これも選択肢としていろいろ検討されてきたわけでございませうけれど、やはり弱者の視点に立った時に公共交通機関の十分発達しているところのそばにあるべきであるとの意見が非常に説得的ではないかと思っております。そういう視点に立ちましても、今、市長の提案にありました点を含めて、今後県民市民の期待にこたえることができるような立派な施設となるようお互い検討進めさせていただきたいと思っております。図書館というものは県民市民の皆さんが利用される施設でありますから、今後の検討をより進化させていくにあたりましては、検討プロセスをできる限りオープンにしていくことが重要かと考えております。

8月25日には、「新高知県立図書館のあり方 新高知県立図書館基本構想たたき台」及び「高知市立追手前小学校敷地への県立図書館・市民図書館の整備について」の2つの報告書を公表し、県民のご意見をお聞きしたいと考えています。

9月議会においてもご議論をいただくということになります。「新図書館整備基本構想検討委員会（仮称）」の設置に関する補正予算を9月議会にお願いすることになりますので、その場において議会でも十分にご議論を賜うということになると思います。その上で承認されれば委員会において直ちに具体的な検討に入ることになります。この検討委員には、図書館の専門家、学識経験者、学校図書館や県内の市町村立図書館の関係者、利用者の代表者などに検討委員として参加していただくことを考えております。また委員会で検討を進めていただくにあたっては図書館の関係団体からご意見をいただく機会を設けることと共に中間取りまとめの際にはパブリックコメントを求めて、広く県民の皆様からの意見をお聞きするなど、いろいろな方々のご意見をお聞きしながらより良い図書館になっていくように検討を深めさせていただきたいと思っております。今後色々な諸点について検討を深めていかないといけないと思っておりますが、いろんな方のご意見を聞きながらぜひ皆さんで良い図書館を作りあげていくことができればと思っております。

市長：市民図書館は建設して42年目になりますが、戦後、日本の図書館をリードしてきた図書館でございます。県・市で合同で新しい図書館の姿を目指すということは21世紀型の図書館の姿を構想の中に探っていくというふうに思っています。是非いいものを作りこみながら21世紀の図書館のできたらモデルになるものを、そういう考え方で基本構想を作り込んでいきたい。

知事：我々としても県立図書館としての新しいあり方というものを作りたいと思っております。新聞で県市立合わせて図書館費が全国最下位というのが出ていましたが、ああいうのは本当に残念。他方で県立図書館は本を増やそうとしても今置く場所がないので。ゆえに県立図書館自体の早期の整備ということは急がなくてはならない状況にあるのですが、もう一つは市町村立の図書館、学校の図書館この支援機能を大幅に強化したいわけです。

そういうことのできる県立図書館を作っていきたい。その為に新しい図書館像というものを一体型整備の中で模索していきたい。これならできると思っていますので。経費面においても人員の配置面においても可能だと思っていますので、これをやっていきたいと思っています。

市長：ぜひいいものにしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

## 5 高知医療センターの経営改善に関するアクションプランの作成

知事：県民市民の皆様へ安定した医療サービスの提供を確保するという観点から、高知医療センターの経営改善に向けて今取り組みを進めているわけですが、H23年度の黒字化を確実にものにしていかないといけないと思っています。そのためにも県・市連携のもとに綿密なアクションプランを策定していくということが是非とも重要かと考えております。綿密な、といいますのは、PDCA サイクルに従って実行検証していくことが可能となりますように、月別でしかも5W1Hが明確になったようなアクションプランをしっかり作って経営改善を図っていく。H23年度の黒字化というものを達成することを確実にしめていくということが非常に重要かと思っていますが、まさに詰めた議論をするべき時期に差し掛かっているかと思っていますが、ぜひ市長のご指導も賜りながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

市長：今医療センターは非常に重要な役割を担っておりますし、へり搬送して郡部から相当の命を救うという、なくてはならない医療機関になっておりますので、安定的・持続的に経営ができるということは大きな柱にしなければいけないと思っております。院長をはじめそれぞれの企業努力がありましてかなり改善してきているところですが、今が一番重要な時期でございますのでH23年度黒字化に向けまして、設置者としてのバックアップ含めて一緒にやっていきたいと思っております。

医療センター内部でもよく言っておりますが、医療センターが崩壊すると、1次医療、2次医療全部が崩壊します。守っていかなくてはならない重要な施設であります。黒字で経営できるということが非常に重要であります。

## 6 その他

市長：今日の会談を受けましてお互いに9月議会があるわけですが、会期が今回は我々の方が早く始まるように聞いておりますので、9月議会の予算・論戦を踏まえていきたい。必要であればまたその都度協議させてもらうことがあるかも知れませんが、よろしくお願いいたします。

図書館の話でも工程表が非常に重要になる。特に我々図書館では合併特例債というものがあるので、工程表が非常に重要になる。また、協議させていただきながら、工程表をしっかり組んでいくということが重要となるのでよろしくお願いします。